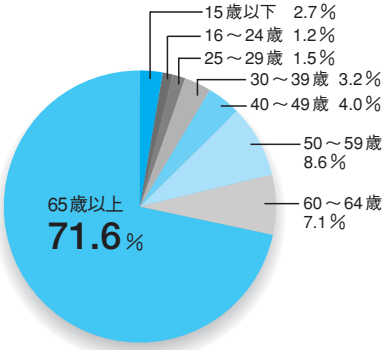




高齢歩行者は横断歩道で安全確認をきちんと行っているか？

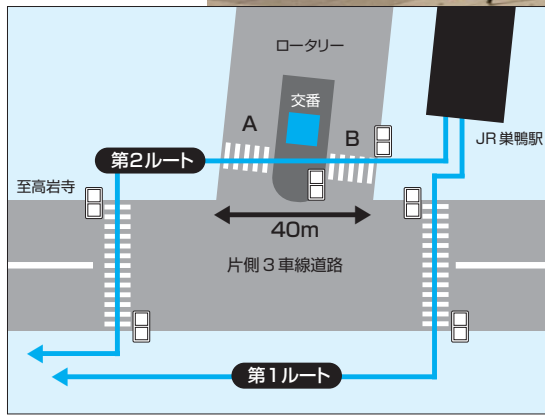
●平成22年の歩行中の年齢別死者数 (構成率) ※警察庁資料



【死者数1,714人】

平成22年の交通事故死者数は4863人。このうち3割以上が歩行中に死亡している。歩行中の死者を年齢別にみると、7割を占めているのが、65歳以上の高齢者である。重軽傷を含めた死傷者数の過去10年(平成12~22年)の推移をみると2万人を割った年はなく、依然として高い水準にある。

Why
歩行中の事故死者数のうち高齢者が全体の7割を占めている！



Q1 高齢者は信号機のない横断歩道で左右確認を行っているのでしょうか？

A 実際の観察から

★Q1の回答
左右確認を怠ったのは543人中417人(77%)

信号がない横断歩道を渡った歩行者数1423人中、935人(66%)が左右確認を行ってなかった。特に高齢者は543人中417人と、5人中4人が左右確認を行わずに横断歩道に進んでおり、前は見ているが、横(左右)に意識が動いていない様子だった。

横断歩道に進入する車両のほとんどは歩行者保護を行ってなかった。歩行者の途切れを見つけて横断歩道に進入するため、あやうく左折時に高齢者を巻き込みそうになる場面もあった。

さらに危険だったのが、歩行者と同一方向に走行する自転車。音もなく、スピードを緩めることもなく走行するため、歩行者のほとんどは存在に気づいていなかった。

観察終了後、14時過ぎ。観察地点で高齢歩行者(女性)と中高年者の乗る自転車(男性)との接触事故が発生。女性は転倒して首を痛めたため、救急車で病院に運ばれていった。



観察場所は、東京・豊島区の巣鴨駅前。駅から300mほどの場所に「とげぬき地蔵」で有名な高岩寺があるため、日中は多くの参拝客で賑わう。巣鴨駅から「とげぬき地蔵」に向かうには片側3車線の国道17号線(白山通り)を横断する。主なルートは2つあり、第1ルートはJR巣鴨駅正面の横断歩道で国道を渡る。第2ルートは駅前ロータリーを横切った後、アーケード街の入り口に設置された横断歩道から国道を渡る。今回の観察は第2ルートで行った。



そこで今回は、お彼岸の参拝客が多い地域での、歩行者の信号遵守と左右確認の状況を観察した。

観察日はお彼岸を含む3連休の中日。午前中から多くの参拝客が駅前を往来しており、観察中に横断した人数は約1400人だった。まず信号機がない横断歩道(A地点)での左右確認状況を、高齢者その他の世代に分けて観察した。進入車両を確認して渡る歩行者が全体的に少なく、特に高齢者は約8割が左右確認せず横断歩道を渡っていた。反対に幼児を連れた家族では、両親がしっかりと左右を確認している様子だった。

同じ横断歩道(自転車横断帯は無)で車両の歩行者保護状況についても観察した。1時間のうち、白山通りから右左折したクルマの75%が違反だった。歩行者が少ないタイミングを見計らってじりじり進入、強引に歩行者を止めて走行するクルマがしばしば見られた。

最も違反が多かったのは自転車。201台中193台(96%)が横断中の歩行者がいるにもかかわらず、乗車したまま横断歩道を通過した。自転車の運転者は自らが車両を扱っている意識が見受けられなかった。

Advice
高齢者は横断歩道で進入車両をほとんど見ていない！

第2ルートの横断歩道は2カ所。B地点の横断歩道には、信号機が設置されている。A地点の横断歩道には信号機が設置されていない。白山通りからは随時右左折する車両があるため、歩行者は進入してくる車両の有無を特に注視し、横断する必要がある。



Q2 高齢者は歩行者用信号(青120秒・青点滅5秒・赤15秒)を守っているのでしょうか？

一方、信号機がある横断歩道(B地点)では信号遵守状況を観察。違反は高齢者が3・8%、高齢者以外が10%。青点滅時に渡った高齢者は4人に過ぎず、無理な横断を避ける安全意識の高さが伺えた。身体機能の低下を自覚して意識的に信号を守る反面、左右確認は怠ってしまっている。一見矛盾する高齢者の行動だが、「信号が青なら大丈夫」「きつとクルマは止まってくる」といった思い込みは、年齢が高くなるほど強くなるように見えた。こうした点をふまえ、横断歩道では歩行者優先を遵守する意識と危険予測をともなった運転が、すべての運転者に求められる。

ロータリーの入口から出口までの横断距離は約40m(図参照)あり、成人の横断時間の平均が23・6秒、高齢者の平均は33・3秒と約10秒の差があった。歩行者用信号は青信号時間が120秒と長いので、高齢者でも気持ちに余裕をもって歩ける様子だった。観察していた1時間に横断歩道を通り過ぎた人数は約1400人。そのうち4割が65歳以上と思われる高齢者だった。高齢者のうち青点滅で横断した人数はわずか4人。また、赤信号で横断した16人のほとんどが、信号が変わったことに気づかず歩き続けていたように見受けられた。



信号無視をした高齢者以外の歩行者は、たいていが駆け足だった。「信号に間に合わない」と分かっているながら、あえて横断歩道を渡っていたと推測される。

ロータリーの入口から出口までの横断距離は約40m(図参照)あり、成人の横断時間の平均が23・6秒、高齢者の平均は33・3秒と約10秒の差があった。歩行者用信号は青信号時間が120秒と長いので、高齢者でも気持ちに余裕をもって歩ける様子だった。観察していた1時間に横断歩道を通り過ぎた人数は約1400人。そのうち4割が65歳以上と思われる高齢者だった。高齢者のうち青点滅で横断した人数はわずか4人。また、赤信号で横断した16人のほとんどが、信号が変わったことに気づかず歩き続けていたように見受けられた。

★Q2の回答
信号無視をしたのは520人中20人(3・8%)

実際の観察から

●信号機のない横断歩道での歩行者の左右確認状況(1423人)

	○	×	小計
高齢者	126(23.2%)	417(76.8%)	543
高齢者以外	362(41.1%)	518(58.9%)	880
小計	488(34.3%)	935(65.7%)	1423

●信号機のある横断歩道での歩行者の信号遵守状況(1365人)

	信号遵守	信号無視			小計
		青	青点滅	赤	
高齢者	500(96.2%)	4(0.7%)	16(3.1%)	520	
高齢者以外	761(90.0%)	62(7.3%)	22(2.6%)	845	
小計	1261(92.4%)	66(4.8%)	38(2.8%)	1365	

●信号機のない横断歩道での車両の歩行者保護状況(377台)

	○	×	小計
四輪	42(25.3%)	124(74.7%)	166
二輪	6(60.0%)	4(40.0%)	10
自転車	8(4.0%)	193(96.0%)	201
小計	56(14.9%)	321(85.1%)	377